

平成30年 6月13日(水)

【北陸地域創生フォーラム～産業観光の進展に向けて～】

開 会 挨拶

北陸財務局長 岩下 啓希

皆さん、こんにちは。北陸財務局長の岩下でございます。本日は御多用の中、多くの皆様にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

北陸財務局では、平成26年1月に北陸地域連携プラットフォームを立ち上げ、産・学・官・金・言の北陸を代表する各界の有識者の方々に御参画いただきまして、地域の様々な課題について御議論をお願いしてまいりました。

当初は個別の会合ごとにテーマを設けまして御意見を頂戴しておりましたが、昨年末より趣向を変えまして、年度ごとにテーマを据えてじっくりと取り組んでみよう、先生方に御議論いただいた内容を提言の形でまとめて北陸の皆さんに発信してみようということで最初のテーマとして選ばれたのが今日のテーマ、産業観光でございます。

キーワードは連携。産業観光の分野では、特にこの連携の重要性が強調されます。では、連携とは具体的に何か。連携するとは、誰と何をすることなのか。この際、少し掘り下げて考えてみようと思いました。とはいえ、なかなか独自の取り組みを考えることは難しいと思います。他分野や他地域の先進的な事例に学ぶ、そして、それを北陸色にアレンジしていけばいい、こういうふうに思います。

例えばダム。北陸にもダムはたくさんあります。全国のダムサイトでは、ダムカードという名刺大の写真入りのカードを配っております。ダムの諸元、あるいは特徴が簡単に記されているカードを集めるのがひそかな人気でございます。しかも、ダムは国だけが作っているわけではない。地方公共団体や電力会社のダムもあります。金沢市内には、内川ダムという県が管理しているダムがありますが、現地のダム管理所に行くと、内川ダムのダムカードがもらえます。異なる主体が同じ規格のカードを発行している、こういうのも連携の1つのあ

り方だと思えます。

そして、ダムカードのこの人気に目をつけたのが下水道なんですね。ほとんど地下に潜って見えない下水道にどうしたら注目してもらえるのか。そこで、下水道のマンホールに目をつけたのですね。確かにマンホールはよく見ると、自治体によって様々な絵柄がデザインされています。名付けてマンホールカードというのですが、意外にもダムカードの二番煎じだが、これがウケたんだそうです。

さっき座長とお話をしているときに、座長にはまねだけではだめだと言われてしまったのですけれども、私は、まねはどんどんすればいいと思うのですね。今朝、ふと思いついたのですけれども、産業観光も、産業観光カードなんていかがですかね。名前はセンスのある人に考えてもらうとして、カードの規格や基本的なデザインを決めておいて、工場を見学したら記念にカードをもらえるようにするのは。カードを集めたいと思う子どもたちがいろいろな工場を訪問するうちに、大人になったらここで働きたい、運命の出会いが待ち受けていたなんて、連携には、こんな成果を生んでいく可能性があるから面白いのではないかなと私は思います。

もとより、観光は、遠くに行きたい、離れた地域を訪問して、非日常の世界を体験することが基本だとは思いますが。しかし、本日基調講演をお願いした須田寛先生は、御著書の中で、観光の意味の語源を、地域の「光」を「心」を込めて見る、地域の「光」を誇りを持って見せると御紹介なさっています。観光が地域の光を見る、地域の「光」を見せるということなのであれば、住んでいる地域にも、実は普段気がついていないきらりと光る企業がたくさんある。地域の若い人々に、地域の産業に目を向けていただけるきっかけを提供することも、これも産業観光なのではないか。

北陸地域プラットフォームでは、今回、産業観光に取り組む意義として、北陸新幹線開業効果の持続、地域産業の維持発展とあわせて、人手不足問題を掲げております。人手不足なのに若い人の人口流出も止まらない北陸の厳しい現状を目の当たりにして、産業観光も若い人材に、北陸に暮らし続けていただくための1つの方策たり得るのではないかと、こういう可能性を感じたのであります。

本日は、産業観光をはじめ、産業政策全般に御造詣の深いJR東海相談役の須田寛様に基調講演をお願いしました後に、事務局より、産業観光について、北陸地域プラットフォームで先生方に御議論いただいた成果を御披露させていただきます。休憩時間を挟みまして、東洋大学大学院国際観光学部客員教授の丁野朗様にコーディネーターをお務めいただき、北陸で産業観光に取り組んでおられる代表的な方々をお招きして、「産業観光における連携のヒントを探る～人、地域、歴史をつなぎ、そして未来へ～」と題したパネルディスカッションを予定しております。

本日のフォーラムが、お集まりいただいた皆様に産業観光の豊かな可能性を感じていただき、産業観光の推進に向けた具体的な連携のあり方についてお考えいただくきっかけとなれば幸いです。という願いを込めまして、開会の御挨拶とさせていただきます。

以上